

登録コード	E6106900	開講年度	2026				
授業科目	病弱の心理・生理・病理				担当教員	宮地 弘一郎	
英文授業名	Fundamentals of Psychology, Biology and Etiology of Hospitalized Children and Youth				副担当	大江 啓賢	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生	2
講義室	教育 E 5 0 4 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	旧：病弱児の心理・生理・病理
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 E カリ， 2 5 E カリ， 2 4 E カリ， 2 3 E カリ， 2 2 E カリ， 2 1 E カリ， 2 0 E カリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				病気の児童生徒の制約要因を理解し支援するために必要な基本的視点を習得し，病弱教育の意義と目標を設定できる。また、そのための家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気（身体疾患や精神疾患）や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。		
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	病弱児教育は、国立療養所の受け入れ児童の変遷と共に歩んできたともいえる。元々長期入院児を対象としてきた病弱児特別支援学校は、心身症や不登校などによる入院児も含め障害の二極化，多様化が著しい。このような現状を理解し，教育的対応のための視点を学ぶことをひとつのねらいとする。また，先端医療の対象となっている児童生徒の中には，常に「死」と隣り合わせの生活を送っている子どもたちがいる。このような子ども達の障害像、および学校を含めた生活の姿について学ぶ中で，教師の存在意義や教育の行き着く先について熟考することを願う。 授業内容 1)心疾患，呼吸器疾患，心身症等の主な対象疾患について理解する。 2)病弱児教育の現状と課題，多様な対象疾患における障害像を理解し支援するための視点を身につける。						
(5)授業計画	第1～3回： 集中講義（担当：宮地） 第4回～第7回： 集中講義（担当：非常勤） 第8回～第14回： 遠隔 オンデマンドを予定しているが、一部教室授業で行う場合がある 第1回 医学とは／病弱教育の対象 第2回 病弱児の援助視点 ...国際生活機能分類（ICF）による生活構造の捉えについて 第3回 病弱児の援助視点 ...ICFモデルからみた病気療養児の制約要因 第4回 病弱児の理解 ...代表的疾患(1)（心臓病，腎臓病を中心に）【集中】 第5回 病弱児の理解 ...代表的疾患(2)（喘息，血友病を中心に）【集中】 第6回 病弱児の理解 ...代表的疾患(3)（てんかんを中心に）【集中】 第7回 病弱児の理解 ...代表的疾患(4)（筋疾患，代謝性疾患を中心に）【集中】 第8回 病弱児の理解 ...代表的疾患(5)（その他の主な身体疾患）【遠隔】 第9回 病弱児の理解 ...代表的疾患(6)（心理社会的対応の必要な疾患）【遠隔】 第10回 病弱児の理解 ...代表的疾患(7)（摂食障害，精神疾患を中心に）【遠隔】 第11回 病弱児の理解 ...病気療養児の教育上の課題【遠隔】 第12回 病弱児の援助視点 ...病気療養児への支援の実際から【遠隔または教室】 第13回 病弱児の援助視点 ...病気療養児のQOL(1)（専門職と発達・QOL保障）【遠隔】 第14回 病弱児の援助視点 ...病気療養児のQOL(2)（環境面の支援，多職種連携等）【遠隔】 定期試験 授業アンケート <欠席について> ・やむを得ない理由による欠席については、規定に基づく申請を行い証拠の確認の上で教育実習による欠席と同様の補充方法とする。 ・なお指定した補充方法を履行できなかった場合の再補充は行わない。 集中講義については、補講は行わないので、受講できるよう日程調整を行うこと。困難な場合は履修登録前に相談すること。						
(6)成績評価の方法	筆記試験						
(7)成績評価の基準	以下の基準により段階評価する。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可 秀(S)：授業の達成目標の水準から見て卓越している 優(A)：授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良(B)：授業の達成目標の水準よりやや上にある 可(C)：授業の達成目標の水準にある 不可(D)：授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可(E)：授業の達成目標の水準にない						

(8)事前事後学習の内容	幅広い知識内容を習得する必要のある科目であり、授業で講義する内容はその基礎的内容である。配布資料については授業外の時間に十分な予習・復習を行い、さらに授業で講義した内容やキーワードについて図書館等を活用して調べ学習を行い、知識の習得と内容の理解を図ること。なお本科目は、授業と授業時間外での自学自習とを合わせて90時間程度の学習を原則とする。
(9)履修上の注意	・本科目は「病弱児の心理・生理・病理」からの名称変更。「病弱児の心理・生理・病理」受講予定の学生は本科目を受講登録してください。 ・記載の対象学年は特別支援教育コース向け（特支コース以外は学年問わず）。なお「知的障害児の心理・生理・病理」の講義内容が基礎となるため、スムーズな内容理解のためにはできるだけそちらを前もって履修しておくこと。ただし事前に「知的障害児の心理・生理・病理」授業を履修できなかったとしても受講は可能。 ・集中講義を全て受講可能かどうか確認してから受講登録してください。特に、第4～7回について、学則に則ったやむを得ない理由以外での欠席があった場合は、原則単位認定できません。 【集中講義（第4～7回）】 10月中の週末1日を予定。日程は、掲示板またはeALPSで案内するため定期的に確認すること。 遠隔授業（オンデマンド）について ・第8～14回はオンデマンド授業を予定しているが、一部教室授業で行う場合があるので留意しておくこと。eALPSまたは第1回授業で案内します。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談等について、授業内容については各回の担当教員まで。履修全般に関しては宮地まで。メールまたは研究室訪問により対応する（アドレスは時間割表に記載）。研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。
【教科書】	特になし。必要に応じてeALPSまたは授業中に資料を配布する
【参考文献】	アメリカ精神医学会 2014 精神疾患の診断・統計マニュアル第 5 版(DSM - 5)日本語版・医学書院。（原版は 2013 年発行） Ito, Y., et al., 2014 Long-term survival and conditional survival of cancer patients in Japan using population-based cancer registry data. Cancer Science, 105, 1480・1486. 宮本信也・土橋圭子（編）病弱・虚弱児の医療・療育・教育, 2005, 金芳堂. 鈴木滋夫 他 2008 全国の特別支援学校<病弱>における適応障害を有する LD・ADHD 等生徒の実態と支援に関する調査研究・特殊教育学研究, 45(1), 39-48. 田口禎子 他 2013 特別支援学校（病弱）における教育的支援の現状に関する調査・発達障害支援システム学研究, 12(1), 37-44. 八島猛 他 2013 病弱・身体虚弱教育における精神疾患等の児童生徒の現状と教育的課題：全国の特別支援学校（病弱）を対象とした調査に基づく検討。小児保健研究, 72(4), 514-524. 吉峯康博(編) 医療と子どもの人権, 1998, 明石書店. 全国特別支援学校病弱教育校長会編 2010 病弱の子どもの理解のために 平賀健太郎 病弱者に対する教育的支援 大山直樹・吉利宗久（共編著）特別支援教育の基礎と動向 第9章, 2007, 培風館. 泉真由子 小児がん患児の心理的問題—罹患経験が心的外傷後ストレス症状に及ぼす影響—. 2008, 風間書房. 宮地弘一郎・須藤美奈 2018 入院児のQOL環境に関する調査研究 —小児単独病棟および混合病棟の設備、人的環境、取り組みについて—. 医療と保育, 16, 18-29. 宮本信也・土橋圭子（編）病弱・虚弱児の医療・療育・教育, 2005, 金芳堂. 村上由則 慢性疾患児の病状変動と自己管理に関する研究—病弱教育からのアプローチ—. 1997, 風間書房. 村上由則 他 2014 特別支援教育専攻学生を対象とした障害理解のための教材開発（4）—人工透析メカニズムおよび腎 臓疾患を中心にした教材—. 宮城教育大学特別支援教育総合研究センター紀要, 10, 49-61. 中内みさ 2001 病弱児の病気体験のとりえ方の発達的变化と心理的援助・特殊教育学研究, 38(5), 53-60. 日本育療学会（編著） 2019 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社. 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一（編著） 2011 特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理 ミネルヴァ書房. 篁倫子 他 2006 ターミナル期における教育的心理対応に関する研究・国立特別支援教育総合研究所平成 18 年度研究報告書. 須藤美奈・宮地弘一郎 2018 入院児のQOL環境に関する調査研究 —壁面装飾およびイベントについて—. 医療と保育, 16, 30-39. すずらん会編 2002 電池が切れるまで—子ども病院からのメッセージ— 角川書店. 武田鉄郎 2005 慢性疾患児(心身症や不登校を含む)の自己管理支援のための教育的対応に関する研究・国立特別支援教育総合研究所平成 17 年度研究報告書. 藤井あけみ 2000 チャイルド・ライフの世界 - こどもが主役の医療を求めて -, 新教出版社 吉峯康博編 1998 医療と子どもの人権, 明石書店 その他、授業の中で適宜紹介する。